

The 100th anniversary

## 授業内容の変遷

明治四十五年以来、今日に至るまで、本校の授業内容は時代や社会・産業界の変化や要請とともにその内容は大きく変容していった。ここではその中心となる商業科目の授業について振り返る。

### 【簿記】

「企業において日常発生する取引を合理的、能率的に記帳できる能力と態度を育てる」

明治四十五年以来、工業学校時代を除き、今日まで本校の教育課程に継続して設置されている基礎科目である。途中「簿記」「簿記会計Ⅰ」「商業簿記」などと名称変更はあるが普遍的な科目である。継続もしくは発展的な科目として、この分野では「会計」「会計実習」「税務会計」「工業簿記」「銀行簿記」などがあつた。この「銀行簿記」については学習指導要領昭和五十三年度改定以降、本校では廃止された科目であるが、卒業後金融機関に就職する生徒も多く、とても重要な科目であつた。

平成二年当時、家庭科の授業は女子のみであつたため、この「工業簿記」は男子週三単位、女子週二単位で実施されていた。

また、商業教育の中では簿記検定試験は重要な検

定であり、検定前の放課後や休日・冬休み期間中に実施させる課外授業は大切なものであつた。「日商簿記二級」を取得して大学進学、就職へのステップとして取得することが目標であり、当然の時代であつた。



### 【総合実践】

「商業の各分野で学んだ基礎的・基本的な知識と技術を実践的、体験的な学習を通して総合的に取得させる」

商業の総合的な学習として重要な位置づけを持つ「総合実践」は、昭和三十二年の「商業実践」から「事務実践」・「総合実践」という科目の変容と遂げている。

現在の「総合実践」の授業では一クラス四十名を管理部・企業・銀行に組織分けし、商品の模擬取引を通じて起票・帳簿作成・財務分析等を行い、加えて職業人としてのビジネスマナー教育の実践の場となっている。現在の総合実践室は組織ごとにパーテーションで区切られ、LANで組まれたパソコンが設置されている。生徒は各係としてパソコンの表計算ソフトやデータベースソフトを活用し各種業務を行っている。

平成三年当時の総合実践は、実習室が現在の前の改修前にあたるためまた、現在とはレイアウトが異なり、情報処理科においては五・六組の二クラス九十名で同時に授業を行っていた。管理部は「特別な部署」として敷居が高い配置レイアウトがされ、重みがある存在であつた。さらにもう一つこの当時の「特別な部署」として「電算課」が存在していたことである。この部署は当時の授業担当の実習教諭により、四月の実践授業開始前に情報処理科の生徒から選りすぐりの生徒を数名ピックアップして組織された部署で、総合実習室の中央に隔離設置された部屋の中でシステム開発を行うという、まさに情報